

## 【会議要旨】遠浅小統合に関する最終説明会（7/27）

1 日時	令和3年7月27日（火） 18時30分～20時10分
2 場所	遠浅小学校 体育館
3 出席者	35名（保護者・地域18名、学校2名、その他8名、町教委7名）

### 趣旨について

- ・今回説明が不足しているところご指摘いただいた部分について、資料を基に改めて説明する。

### 教育長挨拶

- ・ご家庭でゆっくり過ごしたいと思う中、ご参加いただき感謝申し上げます。
- ・意向確認書の内容をまとめたものを前回ご案内したが、新たに2件新規で提出あったのでP2に数値が反映されている。
- ・前回デメリットについて示してほしいというご指摘があったので、国が示すもの（主観の入れていないもの）をもう一つの資料として今回ご案内する。
- ・新たな視点でのご質問等ありましたらお願いしたい。

### 説明 ※②のみ要点記載

#### ①遠浅小学校の統合に関する教育委員会の判断（結論）について

#### ②メリット・デメリットについて

- ・早来地区にすべてが集まっても300名に満たない。
- ・全校統合となれば、現在の2年生と6年生が2クラスになる公算大。それでも小規模校という位置づけとなる。
- ・複式学級は、先生に当てられる回数が多く集中しなければならない状況が生まれやすい等ある一方で、男女比偏在等も指摘されている。
- ・資料の2について、国では小規模校のデメリットにかなり多くのページを割いている。
- ・よって、仮に義務教育学校になったとしても小規模校の位置づけとなるから、引続きデメリットが多いことが現実問題である。
- ・資料ではあまりデメリットという表現がない。解釈としてデメリットとはなり得ると考える。
- ・教員の多忙感については、生じるものと考えている。これはデメリットと考え得る。理由としては、4月にいきなりスタートとなり事前準備ができないこと。できるだけソフトランディングするよう胆振教育局へ働きかけながら現在取り組んでいる状況である。マイナスは当然少しでも無くしたい。

### 質疑 【凡例 ～ ○：質問 ●：回答】

#### ①遠浅小学校の統合に関する教育委員会の判断（結論）について

- ：アンケートについて、数値自体はその通りだろうと思うが、やり方によって結果は異なると思う。正当な手法で実施されたのか？
- ：客観的で意図のない聞き方をしたと考えている。どちらに傾こうとも聞き入れるスタンスだった。自由記載も設けたことで率直な言葉で聞くことができたと思う。無回答の方もいたが、自由記載の中で双方の考え方が示された。また、今回は回収率を向上させるため、単純明快な設問としている。
- ：廃校にするかしないか問うた場合、結果が異なると思うが如何考えるか。
- ：今回は、あくまで統合について明確に問うものである。統合とは、あくまでも双方がなくなり新たなものができるということである。
- ：P10についての1つ目の回答についての内容を詳しく説明願いたい。前提は何か？
- ：選択制を問う時に、今回と同様の結果で推移してきた。選択制を選択した場合、廃校を促進する可能性があることから統合へシフトしたということが前提。児童の分断や廃校に追い込むことをしたくない。いずれにしても、多数決にはしたくなかった。
- ：教員の配置面について、統合を遅らせた場合のデメリットを具体的に。
- ：統合を伸ばした時に、改めて統合しやすくなった場合、現在いる遠浅小学校の先生は義務教育学校へ異動とならない可能性が高まる。
- ：義務教育学校について、苫小牧市では義務教育学校のチラシが入ってきたという情報がある。児童の学区割についてどうなるのか。
- ：原則通学できない。例外もあるが、決められた学校区内で通学いただく。私立はこれが適用されない。選択制とは、本来通わなければならない学校と別な所へ通うが可能となること。例外としては区域外就学制度というものがあり、いじめ等を含めたその児童の環境に応じた配慮が可能なものとなっている。
- ：現在遠浅から区域外就学制度を利用している方がいるが、個人のわがままではないか？
- ：弱者救済措置である。法令に基づく適切な措置である。
- ：再編スケジュールについて、早来小・中で新しい校舎を3学期中に使用開始するということだと思いが理由は？せつかなら一緒に入学できたらいいと思っている。
- ：既存の学校を解体し、グラウンドにする必要があるため。補助金の絡みもある。早来小・中がそのまま残りながら（2校ある状態で）一緒になることから、義務教育学校としては年度単位での整理となる。早来中の生徒については、早期に仮校舎ではないところへ入っていただきたいと考えている。
- ：富岡小学校が閉校した際、児童数減少を背景としていたはず。閉校を決定し閉校するまでの期間について聞きたい。安平地区は一丸となって義務教育学校へ行こうという判断となっていると認識するが、時期的にどのあたりからそうなったのか？
- ：富岡小学校については、平成23年度末で統合となったと認識しているが、今回と同じかもう少し短

いスパンでの実行であったと認識している。閉校に反対の方が少なかったこともあり短かったと記憶している。安平地区においては、選択制のアンケートを取った際、すでにほとんどが希望する状態であり、自治会としても一定の理解が示されたため、その段階からすでにある程度進む道が決まっていたといってもいい状態。PTAからは相談があり説明に行ったこともある。自治会からは、学校の後活用についてご指摘はいただいているため、町長部局と相談している。

○：行きたくない方の回答をした者である。残りたい人が同数程度いることを考慮してもらいたい。ずっと統合するなど言っているわけではない。少し待ってもらいたいということが言いたい。

●：大きな案件ですから、当然意見が割れると思っている。どっちに傾いてもおかしくない案件。それを踏まえて説明してきた。後から義務教育学校へ入ることへの抵抗感を少しでも和らげたい。遠浅地区ならではのあたたかな行事や授業も認識しているが、それは、安平小も早来小も変わらない十分な素地があると思う。学社融合事業をより強くしながら進めていきたい。

○：なぜこういう状態が生まれたのか。初めから統合すると言ってくればよかった。無駄に期待した。今は何を言っても無駄という状態になっている。

●：元々は選択制を導入したいという意向を持っていたが、アンケート調査をした結果から存続が危うい状況を把握した。自然消滅的な状況の起こりえることを認識した。学校建設と選択制は別物を考えていたが、結果として調査結果を踏まえてシフトした形。加えて、建設に関しては当初R4年度開校を目指していたことから時間軸が元来異なっていたものである。

○：これまで説明会をしてきたなかで、最初から廃校するつもりだったのか？

●：R2.10.15に統合の方向で検討すると申し上げた。気持ちは決まっているが、正式には今も確定はしていないため本日この場がある。

○：義務教育学校はできたばかりなので、メリット・デメリットの知見がたまっていないのでは？デメリットがあるのであれば、それへの対応策を示していただければ。

●：メリット・デメリットについては、別に資料をまとめたので説明する。

## ②メリット・デメリットについて

○：転出入があった場合どう対応されるのか？

●：義務教育学校や追分地区の小学校と中学校は小中一貫教育である。特例があり、独自でカリキュラムを組むことが可能。しかし、当町としては学習指導要領に則り、極端なものを組まない予定であり心配は少ないものとする。

## (以下、全体を通じた質問や一方的な意見等)

○：小規模校には小規模校の良さがある。もう少しその部分を見つめなおしてほしい。遠浅小は、安平小と富岡小とは背景（人口減少の具合）が違う。統合するにしても、もう少し勉強して欲しい。

○：聞いてないのが悪いという頭ごなしの発言しかない。一方で、今回はやっとなんとした回答が資

料として出てきた印象。今後は統合に向けて、遠浅地区の保護者と歩み寄って議論していただきたい。

○：結局今日の結論は何か？

●：現段階では、統合の方向性で教育委員会へ諮り決定をいただくこと。

○：要望として、自然に富岡小・安平小の様に閉校できないので時間を欲しい。

○：アンケート結果は鵜呑みにするべきでない。納得している人はこういう説明を聞いていないから、聞いたなら反対に転じる方もいると思う。

#### 結論と終わりの挨拶（委員会としての方針）

- ・これまで遠浅地区では10回、三地区で11回実施してきた。
- ・本日は、最終回と位置付けている。
- ・意向確認書の結果は、大きな意味を持つ。貴重なご意見をいただいた。誠意をもって今後もそれらを踏まえて検討、対応していきたい。
- ・明後日（7月29日）の教育委員会にて、4校を閉校し、R5年4月義務教育学校を開校に併せて統合することを議題とする。
- ・住民有志からの要望書をうけ、今後の教育委員会の議事録は、ホームページ等を通じて公開する予定。
- ・これまでの皆様のご協力に感謝するとともに、教職員の適正な配置について尽力する。

20:10 最終説明会終了